

サ
ウ
ナ

登場人物 男1

男2

男3

男が二人立っている。

男1 (見上げて) ここがスーパー銭湯か。

男2 (同様に) ここが、スーパー銭湯だ。

男1 天然温泉、いいね。

男2 うん。入ろう。

二人、前に進む。

男1 ここで入場券を買うのか。

男2 大人一人1200円だ。

男1 高いな。

男2 さすが、スーパー銭湯だ。

男1 銭湯というより、健康ランドじゃねえのか。

男2 天然温泉だからな。

男1 うん。

男2、財布を取り出す。

男1 あ、良いよ。

男2 え？

男1 今日は良いよ。

男2 なんで？

男1 今日はなんだか、気分がいいんだ。

男2 え？

男1 良い事がありそうな予感がするんだ。

男2 それは、良いね。

男1 ああ。

男2 じゃあ、お言葉に甘えて。

男1、マイムで札を出し、券売機に入れる。

男2 ウイーン。

男1 大人二枚、と。

男2 ウイーン。

男1 あ、戻ってきた。(再び入れる)

男2 ウイーン。

男1 大人二枚、と。

男2 ウイーン。

男1 あれ？

男1、札を伸ばす。

男2 ちよお貸して。

男2、札を伸ばす。伸ばし過ぎてでっかくなっちゃった。

男1 おい、でかくね？

男2 はい、オッケー。

男1、札を入れる。

男2 ウイーン。

男1 大人二枚、と。

男2 ジャラジャラジャラ。

男1 出てきた。

男1、券を取り、男2に渡す。

男1 さて、行くか。

男2 おう。

二人フロントへ向け歩き出す。

と、男3がやってきた。

立ち止まり、上を見て確認し、前に進む。

券売機の前で、札を取り出し買う。

男3 ウイーン。…ウイーン。

男3、札を伸ばしている。

と、おつりの取り忘れに気づく。

周りを確認し、それを取り、

男3 ウイーン。

小銭も投入し、券を買う。

フロントに向かう男3。

男二人、フロントに券を渡す。

そのまま脱衣所へ。

男3、フロントに券を渡し、同様に。

脱衣所に着くと、服を脱ぎ始める男1と2。

そこへ、男3もやってくる。

と、

男1 あ、

男2 ん？

男1 おつり忘れた！

男2 え？

男1、脱ぎかけのまま券売機に戻る。

男1 (券売機を見て) うわ…。(フロントに) あのお、おつり取り忘れたんですけど…。

あー…。

男1、男2の元に戻る。

男2は、先にパンツ一丁。

男1 無かった…。

男2 無かったか…。

男1 うわー、一万円も入れたのに…、なんだ。あー、もー…。

男2 次来た奴が持ってたな…。

男1 教えてくれても良いのに…。

男2 …俺、やつは払おうか。

男1 いや、まあええわ、それは。

男3はそそくさと、二人から離れていき、服を脱ぐ。

男2 …せつかくの予感だったのにな。

男1 …俺の予感なんてそんなもんだて。

男2 …うん。

立ち尽くす二人。

男1 …とりあえず、入ろか。

男2 うん。

男1、パンツ一丁になって、バスタオルを開くと、
「あしやしょうりゆう」と書いてある。

男1 …うわ、なんだてコレ。落書きされとるがや。

この隙にパンツを脱ぎ、バスタオル姿になった男2。

男2 落書き？

男1 子供。

男2 ああ。

男1 散々だな、今日。

男2、男1のパンツを降ろす。

そのまま男1バスタオルを腰に巻く。

「あしやしょうりゆう」が前になるように。

男1 はあ…。

男2 ちよつと俺、トイレ行って来る。先入っというて。

男1 おう…。

男2、上手に去る。

途中、男3の前を通り過ぎる時に、タオルを巻き直す為広げる。

その隙に男3、パンツを脱ぎバスタオルを巻く。

男1、座って身体を洗っている。

男3、下手に去る。

男1、身体を洗い終え、立ち上がり、周囲を見渡す。

そこへ、男2が戻ってきた。

男1 おい…。

男2 ん？

男1 露天風呂は、どこにあるんだ？

男2 ああ、どこだろうな。

男1 ていうか、

男2 うん。

男1 狭くね？

男2 …あれ、狭いね？！

男1 狭いよ。どう見てもこれ、露天風呂は無いんじゃない？だって、窓ねえもん。

男2 無いね。

男1 …どうなつとんだてこれ。1200円も払ったんだぞ、露天風呂無かったら意味ねえ
がや。

男2 …おう。

男1 ちゃうわ、俺今日一万円払っとるわ。

男2 …おう。

男1 勘弁してくれてまあ…。

男2 どっかにドアでもあるんかな？

男1 ドアなんかねえて、回りぐるつと、細かい風呂に囲まれとるがや。どんだけあるんだ
て風呂の種類。

男2 そりゃあスーパー銭湯だもん。

男1 一個一個が小ちええわ。うちの風呂と変わらんがやこれ。全然伸び伸び出来んがや。

男2 しかし、こんなにあるんだから露天風呂もあるはずだよ。

男1 無きや困るて。スーパー銭湯に露天風呂が無かったら、ハンバークの無いハンバーク
…みたいなものだがや。

男2 ああ、そうなんだ。

男1 そうなんだじゃねえて。知つとるだろおハンバーク。

男2 うん、ハンバークは知ってる。

男1 ハンバークが無かったら、ハンバークじゃねえがや。

男2 サンドウィッチだよ。

男1 サンドウィッチより性質悪い。

男2 …そおなんだ。

男1 スーパー銭湯には露天風呂が必ずあるって聞いたつたんだけど。

男2 俺も、そういう話は聞いた。

男1 どうするの？こんな小っちゃえ風呂が外にポツンとあったら？

男2 …それは、寂しいね。

男1 寂しいって言うか、一人しか入れんがや。

男2 うん。

男1 その間他の人はどおしとりやいいんだて。見とらんか。

男2 周りで？

男1 猿じゃねえんだて。

男2 うん。

男1 人も全然おらんがや。ガラガラだがや。

男2 ああ。

男1 どこに居るんだて、他の客は。そのくせ駐車場は満杯だったがや。

男2 うん。

男1 どうなつとんだて、

男2 あれじゃない？やっぱ、露天風呂に居るんじゃない？

男1 どこにあるんだて。

男3、いかにも「気持ち良い」という顔で下手から歩いてきた。

男3 うへー、あつー、ふわー、えー！？あー、ほおー。

汗だけで、腰にはバスタオル。

顔を両手でぬぐい、「ふはー」とやる。

満面の笑顔で上手に去って行った。

男2 どこだっけなあ、あの、ラベンダーの湯、入った？

男1 ラベンダーの湯？

男2 うん。

男1 なんでここにきてわざわざラベンダーの湯に入らないかんだて。

男2 なんかピリピリするんだよなあ。

男1 何が？

男2 肌が。

男1 お前それやばいんじゃない？

男2 肌が？

男1 肌もそうかもしれないし。

男2 ピリピリするんだよなあ。

男1 今も？

男2 今はもう大丈夫だけど。

男1 電気風呂じゃねえの？

男2 いや電気風呂じゃないと思うよ。

男1 ピリピリしたんだろお？

男2 うん。

男1 電気風呂だわ。

男2 だって今日のお湯は、ラベンダーって書いてあったもん。

男1 それ電気風呂だて。

男2 うん、だから、ラベンダーって書いてあったの。

男1 でもピリピリするんだろお。

男2 なんかピリピリするんだよなあ。

男1 それ電気風呂だて。

男2 うん、でもラベンダーってちゃんと書いてあったんだて。

男2 …うん、でも電気風呂は電気風呂で、ちゃんとあるんだわ。どこだったっけな？

男2、探しに行こうとする。

男1 ちよおええて行かんでも。

男2 だから、ラベンダーの湯は、ラベンダーの湯だと思うよ。

男1 なんでピリピリするんだ、じゃあ。

男2 俺アレルギーかなあ。

男1 なんの？

男2 ラベンダーの。

男1 そんなかわいらしい身体かよお前が。

男2 だってビリビリするんだもん。
男1 アレルギーだったら今でもずっとビリビリしとるだろ。
男2 そうなの？
男1 そらそうかわさ、そんなもんわ。
男2 じゃあなんでビリビリしたんだらうなあ。
男1 電気風呂だて、だて。
男2 俺ねえ、
男1 うん。
男2 電気風呂嫌いだもん。入った事ないもん。
男1 今日は入ってまったんだわ。
男2 いやあ…。
男1 なんて入ってもねえのに電気風呂嫌いとか言えるんだお前。
男2 だってビリビリするんでしょお、電気風呂って。
男1 そんなにビリビリビリ来るもんじゃねえて。
男2 俺、ビリビリしたんだよ。
男1 ビリビリもビリビリも一緒だわそんなもん。
男2 そおなの？
男1 お前入った事ないんだらお？
男2 うん。
男1 電気風呂だわ。
男3 うほー！
男3、上手から飛び跳ねながらやってきた。
嬉々として、そのまま下手に駆け抜けて行った。
男1 フロントに聞いてこよか。
男2 ああ、聞きたいねえ。
男1 でも身体洗ってまったでなあ。
男2 この電気風呂はビリビリなのか、ビリビリなのか。

男1 おーい、そういう事じゃねえがや。
男2 え？
男1 どこに露天風呂があるのか聞きたいんだわ俺は。
男2 ああ。
男1 もお、どうしよお…。
男2 あのフロント、どつかで見たことあるような気がするんだよなあ。
男1 なに、知り合い？
男2 いやあ、どつかで見たことあるような気がするんだよ。
男1 どこでえ？
男2 どこだったかなあ？どつかのフロントで見たのかなあ。
男1 いくつフロントやつとるんだてそいつ。
男2 聞いてこよかなやつぱ。ここ以外どつかでフロントやつてるか。
男1 おう、だで、どうせ聞いたら露天風呂聞いて。露天風呂を。
男2 このフロントだったかなあ。どつかのスーパー銭湯のフロントだと思うんだよね。
男1 ホテルのフロントならまだしも、どんだけスーパー銭湯のフロントが好きなんだて、そのフロント。
男2 俺に怒られても。
男1 お前がどこのスーパー銭湯に行った事があるのか考えてみりやすくわかるがやそんなもん。スーパー銭湯みちやそんなに数ねえんだもんだでよ。
男2 俺ね、スーパー銭湯行った事ないんだわ。
男1 はあ？
男2 ここが初めてのスーパー銭湯なんだわ。
男1 …、だったらそのフロントはこのフロントに決まっとるがや。
男2 え、じゃあなんで俺はあのフロントをどつかのスーパー銭湯で見た事あると思っただの？
男1 頭がどうかしとんだわ。
男2 あれかな、ラベンダーの湯かな。
男1 どういう事？
男2 だってビリビリしたもん。
男1 それ電気風呂だて、だて。
男2 ちよつとタイムスリップしちやったのかもしれない。

男1 なに？

男2 俺、スーパー銭湯初めてだったけど、二回目になったのかもしれない。二回目の俺に、

タイムスリップしちゃったのかもしれない。

男1 …またえらい事言い出すなあ、お前。

男2 だから、ここに来たときは初めての俺だったんだけど、ラベンダーの湯に浸かった途端、二回目の俺になっちゃったのかもしれない。

男1 どえらい難しいがや、何言っとんだてお前。

男2 お前も入ってみて、あのラベンダーの湯。

男1 嫌だて、そんなもん。

男2 まあそう言わずに。

男1 嫌だて、ピリピリするんだろ。

男2 うん、ピリピリするんだわ。

男1 電気風呂だわそんなもん。

男2 タイムスリップするぞ。

男1 余計困ってまうわ。

男2 初めての俺が、二回目の俺になるんだなあ。

男1 何言っとるんだ。

男2 初めての俺が、二回目の俺に。

男1 そのフレーズがよお解らんわ。

男2 そお？

男1 そもそもタイムスリップって言うのは、現在のお前が過去や未来に行くって事だろお？

男2 うん。

男1 現在のお前って云うのは、一回目のお前だろお。

男2 一回目って？

男1 スーパー銭湯に来た回数。

男2 ああ、うん。

男1 それがタイムスリップしたからって、なんで一回数が増えるんだて。

男2 うん？

男1 もうええわ。

男2 俺は、スーパー銭湯に一回も来たこと無いんだよ。

男1 だで、だで、現在のお前は、一回目のお前なんだで、タイムスリップしたって記憶ま

で変わる事はないんだでよ、そのフロントを二回見た記憶があるのはおかしいがや。

男2 ああ、そおだよ。

男1 うん。

男3、やってきて、

男3 うわー、もうダメ。これは、やばい。思ったより、ふわー。

男3、汗を拭い、

男3 ふはー。

男3、清々しい顔で上手に去る。

男2 じゃあこういう事かもしれない、現在の俺が、過去に来たのかもしれない。

男1 ン？

男2 つまり、現在の俺は二回目なんだわ。二回目の俺が、一回目のお前に会いに来たんだわ。

男1 …おう。

男2 二回目の俺が、一回目のお前に。

男1 で、なんだて。

男2 だから俺にはあのフロント見覚えがあるけど、お前には無いんだわ。

男1 え、じゃあなに？お前二回目なの？

男2 うん、二回目の俺なんだと思う。

男1 なんだて、お前来たこと無いって言っとったがや。

男2 うん、タイムスリップして来ちゃったからね。

男1 なんでタイムスリップして来ちゃうの。

男2 スリップってお前。

男1 なに？

男2 スリップ？

男1 そんな事言った？
男2 うん。
男1 じゃあもうスリッパでええわ。
男2 うん。
男1 お前わざわざタイムスリッパまでして、何をしに来たの？未来から。二回目のお前は、
一回目に何をしに来たんだわざわざタイムスリッパまでして。
男2 それがわからんもん。
男1 というかお前はいつから二回目のお前なんだて？
男2 どういう事？
男1 家から？
男2 ん？
男1 俺がお前んちに迎えに行った時から、お前はもう二回目のお前だったの？
男2 ああ、どおなんだろ？
男1 いつから二回目のお前になったんだて。
男2 うーん、参ったなあ。
男1 参るなて。
男2 うん。
男1 参るのはこっちだわ。
男2 なんか、ごめんね。勝手に二回目になって。
男1 そおだわ、俺まだ一回目だぞ。
男2 うん。
男1 一回目のお前はどこ行ったの？
男2 え？
男1 おれの知つとる一回目のお前は？
男2 ああ、どこにおるんだろ。
男1 もおええわ、なんか考えるのもめんどくせー。
男2 二人おるはずだよ、ここには。
男1 もうええて。
男2 これがあれか、パラドックスつて奴じゃない？
男1 うん。
男2 ややこしいことになってきたなあ。

男1 ややこしいのはお前だわ。
男2 俺？
男1 なんでラベンダーの湯に入つてそんな事になつとるんだ。
男2 俺じゃないつて、ここがいかんのだつて。このスーパー銭湯がおかしいの。だで客も少ないんだわ。
男1 ふあー（あくび）。
男2 なにあくびしとんだ。
男1 もう訳わからんもん。
男2 大変な事が起つとるんだぞ今！
男3、大笑いしながらやってきて、
男3 ひゃー！うひゃひゃー！
そのまま上手に去って行った。
男1 お前さ、
男2 うん。
男1 二回目のお前だったらさ、露天風呂がどこにあるのか教えてくれて。
男2 いくら二回目の俺でもわからんもんはわからんはさ。
男1 お前二回も来といて、露天風呂に入つとらん事ないだろ。
男2 入つとらんかもしれんな。
男1 そんなバカな話あるか、天然温泉だぞココ。
男2 あのフロント以外、なんにも記憶に無いんだよね。
男1 何やつとんだてお前。なんの為に生きとんだて。
男2 おい、それは言い過ぎなんじゃないの？
男1 もう帰れて。二回目のお前に用はねえんだわ、俺は一回目のお前とスーパー銭湯に来たんだてよお。
男2 お前も、ラベンダーの湯に入つてみたらわかるじゃん。
男1 嫌だて、過去に行つてまうもん。
男2 お前が過去に行つちやつたら、どうなるんだらうね？

男1 ん？

男2 お前まだ一回目だから、過去に行ってまったら、ゼロ回目のお前になってまうぞ。

男1 ゼロ回目ってどういう事？

男2 わからん。

男1 俺今ここにおるがや、ゼロ回目ってなに？

男2 ほら、こうなるともうおかしいわ。おかしな事になって来とるわ。

男1 おかしな事になってきとるのはお前だよ。

男2 だってゼロ回目なのに今ここにおるってのは明らかにおかしいよ。お前は存在しない

何かになるんじゃない？

男1 存在しない何かってなに？

男2 わからんけど、このスーパージョウに来たこと無いのに、ここに居るって事は、もうな

んかおかしな事になつとるんだわさ。宇宙から外れたところに今おるんだわお前は。時

空の狭間だわ。ハザマ。

男1 なんで俺だけそんな大変な事になつとるんだて。

男2 だって俺二回目だもん。一回多いもん、お前より。

男1 なんで一回多いの？

男2 俺はラベンダーの湯に入ったもんで、この宇宙の真理に気づいたけど、お前はラベン

ダーの湯に入らんかったもんで、わからんまんまなんだわ。

男1 俺は露天風呂に入りたいの。最初に露天風呂に入って、それからいろいろ周るつもり

だったんだもん。いっつもそうしとるもん。お前おかしいて、なんで一番にラベンダー

の湯に入つとるんだ。ここ天然温泉だぞ。意味わからんわ。

男2 そんなもんまず身体あつためで、てつとり早くその辺のお湯に浸かったんだがね。

男1 お前身体洗つとる？

男2 洗つとるわ。

男1 ほんとかて？ちゃんとゴシゴシ洗つた？

男2 洗つたて。

男1 ほんとかて？俺そういうのダメなんだわ。

男2 だから洗つとるて。

男1 かけ湯だけしていきなり入るおっさんとかおるだろお、ああいうのもう勘弁して欲し

いわ。

男2 おるなあ。

男1 お前だろ。

男2 なんでえ？俺はちゃんと洗つとる。

男1 ほんとかて。

男2 ほんとだわ。一回目のお前に言われたくねえわ。

男1 何回目の俺だろうとおんなじこと言つたるわ。

男2 ほんとかて。

男1 ほんとだわ。え、何を確認されたの今？

男2 二回目だぞ、俺様は。

男1 なんで偉なつとるんだて。そんなに偉そうに言うなら露天風呂がどこにあるのか教え

てくれて。天然温泉だぞここ。

男2 あれ、ちょっと待てよ、

男1 お、なんか思い出した？

男2 いや、俺の事だで、何回来ようが、絶対ラベンダーの湯には入るぞきつと。

男1 ；おう。

男2 てことは、

男1 なにい？

男2 俺はほんとに二回目なのか？

男1 ；は？

男2 もしかしたら、何回も来とるんじゃないのか？その度にラベンダーの湯に入って、ど

んどん過去にさかのぼつとるんじゃないのか。

男1 なんでそんな事になつとる？なんでラベンダーの湯に入ると一回少なくなるんだて。

男2 俺は、五回目なのか？

男1 知らんわもう。

男3、また汗だくで下手から歩いてきた。

男3 うわー、これどんどん。もう、どんどん。

顔を両手でぬぐい、「おはー」とやる。

二人の真ん中に立ち、ここには風が吹いているようで、全身で風を受ける。

男3 はあー。

そして上手に去って行った。

男2 五回目の俺が、一回目のお前に会いに来たのは、何か理由があるのかもしれないぞ。

男1 そらわざわざタイムスリッピまでしとるんだなあ、なんか用事あるんだろ。

男2 何か、重大な秘密が隠されとるのかもしれないぞ、このスーパー銭湯には。

男1 だでなに？はよ言えて。

男2 わざわざタイムスリッピしてきたほどの事を、俺は五回目にして知ってしまったんだ。

それをお前に伝えに来たんだきつと。

男1 うん、なに？

男2 ここに、露天風呂は無い。

男1 え、マジで？

男2 うん。

男1 …え、マジで？！

男2 うん。

男1 …それ有り得んだろ。

男2 有り得ん事が起こつとるんだわ今。

男1 露天風呂の無いスーパー銭湯なんて…。

男2 サンドウィッチみたいなのもんだもんな。

男1 うん。

男2 うん。

男1 …なんかそれだと意味わからんわ。

男2 ん？

男1 いきなり言ってもいかんわ。

男2 ああ、そうか。

男1 牛肉の無い牛丼みたいなもんだがや、みたいな。

男2 ごはんだが。

男1 うん。クルトンの無いコーンスープみたいなのもんだがや。

男2 コーンスープだがや。

男1 うん。

男3、きやつきやつきやつきと通り抜けていく。

男1 とにかくそれくらいの大変な事なんだわ、露天風呂の無いスーパー銭湯なんてのは。

男2 じゃあどうする？帰る？1200円も払ったんだぞ。

男1 一万円払つとるて。

男2 ああ。

男1 …。

男2 あ、ごめん、嫌な事思い出させて。

男1 もう言えて。

男2 俺、やつぱら払おうか？

男1 もう言えて、それがもう思い出させとるて。

男2 そつか。

男1 もおー、俺まだ一滴も天然温泉を浴びとらんのだぞ。

男2 そうだろお？どうする？とりあえずどつか入る？

男1 お前だって、まだラベンダー風味の普通のお湯しか浴びとらんだろお。

男2 うん。

男1 おまけにタイムスリッピまでして。

男2 ラベンダー風味の普通のお湯と、過去へのタイムスリッピ付きで1200円は、安い

よね。

男1 過去にタイムスリッピしたところで、なんにも変つとらんがやお前。

男2 まあとりあえず身体洗おか。

男1 お前やつぱら身体洗つとらんかったんだがや！

男2 え？

男1 おかしいと思つたわ、一緒に身体洗つとるはずなのになんてお前だけラベンダーの湯に入つとるんだて。やつぱり洗わずに入つとつたんだがや。俺絶対ラベンダーの湯には入らんでな、きつたねえ。

男2 ちやうてバカ。

男1 何がバカだ。

男2 俺は普段からキレイにしとるもんで、さつと流せばつるつるになるんだわ。さつと流せば、もうつるつるだわ。

男1 もうわかったて。

男2 さっと流せばつるつるだつて、見てみる。

男1 つるつるな訳ねえがやお前みたいなもんが。

男2 お前は普段油にまみれて生活してると、ごしごし洗わんと汚れが取れんのだわ。

男1 油にまみれて生活しとるつてどうい生活だ、人をゴキブリみたいに言いやがつて。

男2 俺は普段から自家製アロマオイルで手入れしとるもんで、トウルツトウルツだわもう、トウルツトウル。

男1 何がアロマオイルだ、汗だろ汚ねえ。

男2 普通の人からは汗が出るが、俺からはアロマオイルが出とる。

男1 いっつも汗ダラダラだがやお前。

男2 俺は汗なんか生まれてこの方かいた事が無い。だいたい汗という字が嫌いだもん。さ
んずいに干からびるつて書いて汗だぞ。真逆の字だがや。意味がわからん。

男1 汗を書いた事が無いつてそつちの意味だつたの？

男2 どつちの意味でも一緒。

男1 そんなこと言うんだつたら俺だつて自家製アロマオイル出とるわ。

男2 嘘こけ、お前からアロマオイルが出る訳がねえ。

男1 お前が出るんだつたら俺にも出るわ。

男2 どこから？

男1 毛穴からだわ。

男2 毛穴つてどこの？

男1 主に、首から上だわさ。

男2 一回にどれくらい出るの？

男1 そら、玉のように出るわさ。

男2 頭からも？

男1 当たり前だがや、頭なんかダラダラだわ。毛穴だらけだわ頭みたいなもんわ。

男2 ここも（鼻の下）鬚みたいになる？

男1 なるわさ。ほいで、こうやつてやつて（顔を手で拭い）ぶはーつてやるんだわ。

男2 お前それ、俺と一緒にだわ！

男1 だでそう言つとるがや。

顔を両手でぬぐい、「ぶはー」とやる。

男3 いやあ、もう無理。もう無理だ、ははは。

男3、風を受けて、恍惚の表情。

そして上手に去つて行つた。

男2 お前、普段何食つとる？

男1 何食つとるつて、まあ…、和食を中心にバランスの良い食事を採つている。

男2 例えば？

男1 例えばつて…、お前は何食つとるんだ。

男2 俺はだいたい朝は食わん。

男1 朝はええんだわ、昼から答える。

男2 お前は朝何食つとるんだ。

男1 和食を中心に、バランスの良い食事を採つている。

男2 だから例えば。

男1 特に朝はヨーグルトを採つている。

男2 和食じゃねえがや！

男1 お前、昼は何食つとるんだ。

男2 昼はだいたい、うどんだ。

男1 サラリーマンか。

男2 お前昼は？

男1 和食を中心に

男2 また和食かて。

男1 特に昼は、ヨーグルトを採つている。

男2 またヨーグルト？一緒にやん朝と。

男3 えー！？低い。低過ぎるよねえ。

男3、駆けてきて、

などと言いながら、大笑いしながら駆け抜ける。

男1 お前の夜は？

男2 夜はだいたい、牛井だ。

男1 サラリーマンか。

男2 お前は？

男1 和食を中心に

男2 また和食！

男1 特に夜は、ヨーグルトを採っている。

男2 一緒！全部一緒。3食全部一緒。バランス悪り！

男3、やってきて、

男3 ふわー、高い。高すぎるよねえ。

顔を「ぶはー」と拭い、爽やかな笑顔を残して下手へ去る。

男1 おかげで俺の肌はツルツルだ。

男2 ツルツルは俺の方だ。

男1 いや、お前の思っている3倍はツルツルだ。

男2 俺の思つとる3倍ツルツルだったら、お前の肌はプラスチックだわ。

男3、きゃっきゃきゃつきゃと通り過ぎる。

男1 お前がプラスチックだと思う3倍プラスチックだ。

男2 おい、意味わからんことになって来とる。

男1 もうプラスチックでいい俺は。今日からおれはプラスチック人間だ。

男2 そおなの？

男3、すぐに戻ってきて、「ぶはー」とやって去る。

男1 プラスチックのおー（腕をグルングルン）、
男2 お。

男1 おー、のおー！！（腕を突き上げる）

男2 ；おお。

男1 どうだ。

男2 何が？

男1 ダメージ。

男2 うん、なんだかわからんが、深手を負った気がする。

男1 でしょ。

男2 お前がな。

男3、すぐに戻ってきてうひゃうひゃと笑いながら通り過ぎる。

男1 プラスチックのおー（腕をグルングルン）、
男2 もう止めとけ、致命傷になるぞ。

男1 ー、のおー！！（両腕を上げる）

男2 やりきった。

男1 どうだ。

男2 何が？

男3、戻ってきて「ぶはー」とやって爽快に去る。

二人の会話は終わりそうにない。

溶暗。

〜終〜

【上演記録】 2008年2月2日～3日 劇王V 長久手市文化の家風のホール

この戯曲の著作権は、作者である平塚直隆にのみ帰属するものです。
上演許可あるいはその他のお問い合わせは、作者の所属する「オイスターズ」どうぞ。

■オイスターズ ■

ホームページ

<https://oysters.official.jp>

メールアドレス

theatrical_unit_oysters@yahoo.co.jp